

事業年度	1月1日～12月31日
定時株主総会	3月下旬開催
期末配当基準日	12月31日(中間配当金の支払いを行うときは6月30日)
単元株式数	100株
公告方法	電子公告(http://www.cac-holdings.com/) ただし、やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、 日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711(通話料無料)

■ ホームページのご案内

当社ホームページでは、
最新のトピックスをはじめ、
株主・投資家様向けに様々な情報をご案内しております。
ぜひご利用ください。

<http://www.cac-holdings.com/>

■ TOPページ



■ IR情報ページ



株式会社 CAC Holdings

本社 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町24-1 TEL.03-6667-8010(経営管理部)

文字の読みやすさ(視認性)を高めたユニバーサルデザインフォントを使用し、よりわかりやすいレイアウトにしています。

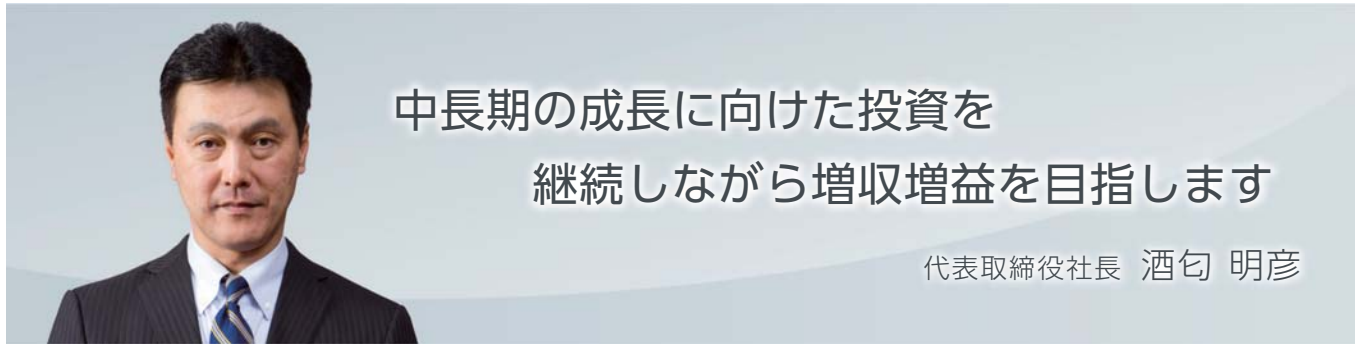


CAC通信

Fiscal Year 2015

2015年12月期 報告書
2015.1.1～2015.12.31





2015年度業績は、金融機関向けシステム構築サービスの好調や円安影響による海外子会社の売上増により、増収となりました。利益面では、海外子会社であるAccel Frontline Limited (AFL) の貸倒引当金等のコスト増加や、医薬品開発支援サービスにおけるプロジェクト開始の遅れに伴う要員不稼働により、営業利益、経常利益は大幅減となりました。また、後段に詳述いたしますが、AFLにおける貸倒引当金等の関係会社事業損失と、同社に関するのれんの減損損失を特別損失に計上したため、当期純利益は赤字となりました。

当期純損失は上場以来初で、株主の皆様にはご心配をおかけいたしました。今回のAFLのコスト増加や特別損失の多くは一時的なものであることから、期末配当金は計画どおり1株につき16円とさせていただきます。

次期は、2015年に子会社化した医療向けにITサービスを提供しているシンガポールのSierra Solutions Pte. Ltd.の新規連結とともに、医薬品開発支援サービスを中心にさらなる伸長を見込んでいます。中長期の成長に向けた投資を継続しながら増収増益を目指すことで、株主

の皆様のご期待に応えてまいりたいと考えています。最後に、当社の海外連結子会社であるAFLについてのご報告をいたします。2016年3月8日時点で、AFLは、Deloitte Touche Tohmatsu India LLPを独立監査人として、2013年3月期から2015年3月期にわたる3年間の売掛金に関する調査を実施しています。この調査は、当社からの会計処理の厳格化要請に基づき行われているもので、中間報告により、貸倒引当金計上が妥当な売掛金等の金額が示されました。当社においては、この売掛金等について分析・把握を行い、先にご説明のとおり、貸倒引当金等の関係会社事業損失7億36百万円、のれんの減損損失6億53百万円を2015年度決算に特別損失として計上しました。

本件についての発生原因等の調査は現在も継続中で、判明後に別途開示を行う予定ですが、後日受領する発生原因等を含む調査結果を踏まえて原因の究明と責任の所在を明らかにするとともに、今後、このような事態を起こすことのないよう、再発防止に向けた取組みを検討する所存です。

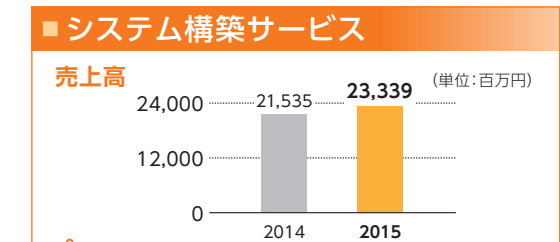
■ 連結業績概況 (1~12月) (単位:百万円)

	前年度(2014年度)	当年度(2015年度)	対前年度増減率(%)
受注高	50,687	55,330	+9.2
売上高	50,031	52,105	+4.1
営業利益	3,191	1,209	△62.1
経常利益	3,000	1,080	△64.0
特別利益	1,220	1,086	△10.9
特別損失	20	1,406	-
当期純利益	2,343	△142	-

■ 中期経営戦略の進捗

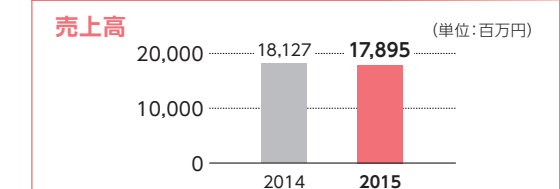
	2015年度の進捗	2016年度の取組み
新主流技術の追求 新事業領域へのチャレンジ	<ul style="list-style-type: none"> ベンチャーファンド設立 Jiboへの出資 Sierra Solutions子会社化 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な投資による新技術・新事業領域開拓 社会保障領域の拡大
BPO付加価値増大 All in AZAREA	<ul style="list-style-type: none"> 『Micmari』のサービス化 システム開発の効率化、品質向上 	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品開発支援サービスでの事業拡大 システム開発の効率化、品質向上 グループ内での技術蓄積
アジア軸でのグローバル支援体制活用 グループ横断的戦略による企業力の強化	<ul style="list-style-type: none"> グループ間の連携強化 グローバル営業体制の構築 次世代リーダー育成 	<ul style="list-style-type: none"> グループ間の連携強化 グローバル営業体制の強化 次世代グローバルリーダーの育成

■ サービス別売上高



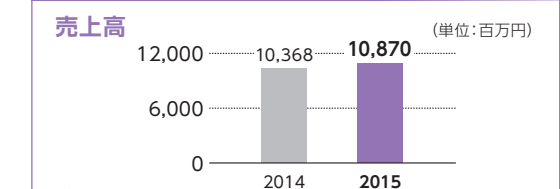
POINT
金融向け案件の好調により増収となりましたが、AFLをはじめとするコストの増加や投資の増加等により、営業利益は前年度比40.6%減の10億1百万円となりました。

■ システム運用管理サービス



POINT
売上高は国内主要顧客向けが減少したため、減収となりました。利益面では、減収に加え、AFLのコスト増等により営業損失は1億87百万円となりました。

■ BPO/BTOサービス



POINT
医薬品開発支援サービスの伸長により増収となりました。営業利益は、医薬品開発支援サービスの一部サービスにおける復調の遅れ等により前年度比62.8%減の3億95百万円となりました。

■ 米国ベンチャー企業Jibo(ジーボ)に出資

2015年10月に設立したコーポレートベンチャーファンド(Fenox Venture Company XI, L.P.)を通じ、家庭向けソーシャルロボット開発・販売のスタートアップ企業Jibo, Inc.への出資を行いました。

「Jibo(ジーボ)」は家庭内でのコミュニケーションを目的としたロボットで、音声および感情認識や自然言語処理、機械学習、感情表現ディスプレイ、動作などの最先端技術が投入されています。例えば、顔認識によって個々の区別をつけ、人工知能によって感情を理解し、相手により話す内容を変えます。利用者となる人と「親しい関係」を築こうというコンセプトで開発されており、一般家庭に限らず、医療現場や介護施設等でも活用できると考えています。

今回の出資で、当社にとって新規事業であるソーシャルロボット市場への参入を果たし、中期経営戦略の一つである「新事業領域へのチャレンジ」をさらに加速させます。



■ シンガポールIT企業のSierra(シエラ)社を子会社化



2015年12月、シンガポールに本拠を置くIT企業Sierra Solutions Pte. Ltd. (以下、Sierra社)を子会社化しました。

Sierra社は、医療機関の運営に関わるノウハウを有し、患者の来院/入院から退院までの一連の流れに伴うデータを一元管理するパッケージソフトウェアのコンサルティング、導入等を行っており、シンガポールをはじめインド、タイ、スペインなどで多くの実績があります。また、保有するノウハウを生かして、介護者やその家族向けのアプリケーションをシンガポールで開発しており、ゆくゆくは日本を含むアジア各国への展開も視野に入れています。

今回の子会社化により、Sierra社のノウハウやリソースを活用しながら中期経営戦略で取り組んでいるヘルスケア領域でのさらなるビジネス拡大を図ります。

■ 取締役会長 島田俊夫が藍綬褒章を受章

平成27年秋の褒章において、当社取締役会長の島田俊夫が、藍綬褒章を受章しました。今回の受章は、社業のみならずJISA(情報サービス産業協会)副会長としての活動や、IT協会(企業情報化協会)、経済同友会、大学講師等の各種活動を通じて情報サービス産業の振興に寄与してきた功績が認められたものです。

当社は情報サービス産業発展のため、創業時より幅広く活動を行っておりますが、今後も様々な取組みをしていくとともに、当社の知名度向上や、社外とのネットワーク強化による当社事業へのプラス効果創出に努めていきます。



■ CACエクシケアとクリニカルトラストが合併

当社グループで医薬品開発支援サービスを提供しているCACエクシケアとクリニカルトラストが、2016年4月1日付で合併いたします。

昨今、国際共同治験の増加や臨床試験の多様化等を背景に、顧客である製薬企業からは広範なサービス提供力が求められており、今回の合併は、これに対応するものとなります。

非臨床・臨床から申請、製造販売後調査、安全性情報管理などのCRO業務において、ITを駆使した様々なサービスを提供するCACエクシケアと、モニタリング業務に定評のあるクリニカルトラストの2社が一体となることで、医薬品開発をワンストップで支援します。



また、合併後の新会社の名称は、CROとITの融合によるさらなる飛躍を目指しCACクロア(CAC Croit)としました。Croitはフランス語で「信頼する」という意味を持ちます。社名には、製薬企業をはじめ医療に携わる多くの関係者を信頼の絆で結ぶことで、新薬を必要とする患者様に、安全で良い薬を1日でも早くお届けするお手伝いをしたいという思いを込めています。今後のCACクロアに是非ご期待ください。

■ 社員家族向け本社見学会を開催しました



CACは、8月に社員の家族を招いて、「本社見学会」を開催しました。今年は、12家族から14名の小学生たちが参加しました。

会社説明の後、父親、母親と名刺交換をし、社長室や会議室、コミュニティエリアや職務フロア等を訪問しました。

はじめは少し緊張気味の子供たちでしたが、時間が経つにつれ和らいだようで、オンライン会議体験では別室にいる父親、母親や外国籍の社員が映ると身を乗り出し、画面に向かって手を振ったり話しかけたりと積極的に参加している姿が見られました。

今回の本社見学会が、参加した子供たちにとって社会を知るきっかけとなり、また社員家族による当社へのさらなる理解につながればと考えています。

■ 当社設立50周年を迎えます

当社は、2016年8月8日に、設立50周年を迎えます。これもひとえに、株主の皆様の永年にわたるご愛顧の賜物であり、社員一同、心より感謝申し上げます。

50周年を迎えるにあたり、50周年記念のコンセプトとロゴマークを設定し、また記念事業のひとつとして社会貢献活動などの取組みを強化してまいります。

当社グループは、今後も皆様のご期待に応える貢献ができますよう、グループ一丸となり邁進してまいります。



■ 50周年Webサイト <http://50th.cac-holdings.com/>

■ 株式の状況 (2015年12月31日現在)

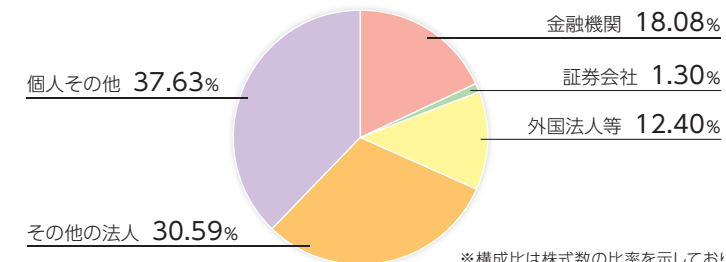
発行可能株式総数	86,284,000 株
発行済株式の総数	21,541,400 株
総株主の議決権の数	196,542 個
株主数	5,197 名

■ 大株主

株主名	議決権数(個)	議決権比率(%)
株式会社小学館	35,122	17.86
アステラス製薬株式会社	10,777	5.48
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,599	4.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	7,645	3.88
CAC社員持株会	6,937	3.52
キリンホールディングス株式会社	5,313	2.70
株式会社三井住友銀行	4,840	2.46
東洋ゴム工業株式会社	2,890	1.47
STATE STREET LONDON CARE OF STATE STREET BANK AND TRUST, BOSTON SSBTC A/C UK LONDON BRANCH CLIENTS - UNITED KINGDOM	2,609	1.32
BNYML-NON TREATY ACCOUNT	2,443	1.24

(注)当社は、2015年12月31日現在、自己株式1,884,043株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

■ 所有者別分布状況



※構成比は株式数の比率を示しております。

■ 会社の概要 (2015年12月31日現在)

商号	株式会社CAC Holdings
英文社名	CAC Holdings Corporation
本社	東京都中央区日本橋箱崎町24番1号 TEL.03-6667-8001(代表)
設立	1966年8月8日
資本金	37億204万円
従業員数	20名(グループ従業員数5,202名)

■ 役員 (2016年3月24日現在)

取締役会長	島田 俊夫
代表取締役社長	酒匂 明彦
取締役	高橋 久
取締役	チェン・ビン
取締役	メヘタ・マルコム
取締役	西森 良太
社外取締役	花田 光世
社外取締役	松島 茂
社外取締役	廣瀬 通孝
社外取締役	黒田 由貴子
常勤監査役	松村 晶信
常勤監査役	大須賀 正之
社外監査役	藤谷 護人
社外監査役	石井 光太郎